

2024.05.19. 恐れとの闘い  
第二テモテ 1章 6節から 8節  
Mac 牧師

一緒に祈りましょう。愛するお父様、私たちが集うことができるこの時を心からあなたに感謝します。祈りと同じように、時に礼拝に気が進まない時もあります。ええ、いろいろなことがあります。でも、私たちが今朝ここにいること、私たちがどんな状況でもそれを実行できることを、あなたに感謝します。その中に、主よ、なんという祝福でしょう。主よ、私たちがあなたの御言葉に触れるとき、励まし、教えてくださいますように。また、主よ、私たちが惑わされることのないよう、集中させてくださいますように。主よ、あなたの忠実なしもベマック牧師があなたの御心を行ない続けるとき、彼と彼の家族と共にいてください。主よ、彼が勇気と大胆さを持って力強く立ち上がり、あなたの聖霊によって、あなたが彼に召された事をできるよう助けてください。今朝の御言葉における学びを祝福してください。イエスの御名によって祈ります。アーメン。

主を褒め称えます。ありがとうございます。どうぞご着席ください。まず、ご挨拶したいと思います。おはようございます！！（会衆：おはようございます！）そう、それです。私たちがどう感じるかは別として、まさにその通りです。JD ファラグ牧師に代わって、ここカルバリー・カネオへの日曜日のライブ配信礼拝へようこそ。初めて来られた方、私たちはあなたを歓迎し、あなたが愛と交わりによって祝福されることを祈ります。祈りつつ、あなたがホールで、フェローシップされますように。今日は喜びのご褒美をご用意しました。イナゴの唐揚げ。一爆笑一

美味しいんですって！！ —（笑）— ベーコンのような味がすると言っていたよ。—（笑）— それは木曜日の夜の学びの一部だったから、内輪のジョークですけどね。いや、ホールにイナゴはありません。冗談ですよ。—（笑）— でも、もしある方がいれば、教えてください。でも、ようこそ。来てくれてありがとうございます。次回の祈り会について、皆さんにお知らせします。6月4日午後7時から、ここ礼拝堂（聖域）で実施します。ですから可能なら、ぜひ来て、一緒に教会の体として祈りましょう。暗く倒錯した時代に、祈らなければならないことはたくさんあります。私たちにはできる限りの祈りが必要です。皆さんもそう思うでしょうし、そうなることを祈ります。もし都合がつかなければ、どこにいても立ち止まって、その場で祈ってください。主を褒め称えます。では！日曜日には2つの礼拝があり、通常、第一礼拝は、「聖書預言・アップデート」、第二礼拝は「説教」に専念します。今日は、「第二テモテへの手紙 1章」にお招きします。6節から始めます。可能な方はご起立ください。今朝の聖句の朗読の後、祈りの言葉を捧げます。「第二テモテへの手紙」、1章、有名な箇所です。神の御言葉を御読みします。

—II テモテ 1 : 6—

そういうわけで、私はあなたに思い起こしてほしいのです。私の按手によってあなたのうちに与えられた神の賜物を、再び燃え立たせてください。

—II テモテ 1 : 7—

神は私たちに、臆病の霊ではなく、力と愛と慎みの霊を与えてくださいました。

—II テモテ 1 : 8—

ですからあなたは、私たちの主を証しすることや、私が主の囚人であることを恥じてはいけません。むしろ、神の力によって、福音のために私と苦しみをともにしてください。

今朝、この学びへの祝福を神に祈り求めましょう。天のお父様、主よ、ありがとうございます。あなたが特別で独特な方法で私たちとここで出会ってくださいますように。この聖句を何度読んだことがあっても、新しいものをもたらしてください。あなたの御言葉は生きておられるからです。そして、それが私たちの心を活性化させ、よりよくあなたに仕えることができますように。ですから主よ、耳を開いてここにいる私たちに語りかけてください。あなたの真理の言葉を受け取るため、私たちの心と思いを開いてください。救世主イエス、イエシュアの力ある御名において祈ります。アーメン。

それでは、ご着席ください。ありがとうございます。今朝の学びのタイトルは『恐れとの闘い』です。

あなたが誰であろうと、この地上でどんな地位にしようとも関係ありません。恐れとの闘いは誰にでもあります。ただシンプルに「神を信じるから」と言うだけで、自動的に恐れとの闘いが終わることはありません。最終的に、それがシンプルな答えだとしても。でも、もしそれが絶対的な力を与える表現なら、聖典に記されているような恐れに対処する御言葉は必要ないでしょう。これらの記述は、恐れがいかに現実的かを教えていて、同時に、私たちの神がいかに愛に溢れ、善であられるかを示しています。私たちの誰もが、しばしば恐れの影響を受けることをご存知であられます。私たちが特に神のために生きているなら、毎日毎日、私たちが揺さぶる可能性を秘めた何かに直面します。多くの場合、私たちには、この「手順」の開始のために少しの時間があるだけ。『イエスの下へ行く』皆さん、ついてきていますか？ そうしなければ、いろいろなことが思いに浮かんでくるからです。それらは健康的ではありません。しかし、神はご忠実で、私たちが恐れで不自由にならないよう、必要な慰めと励ましの言葉を与えてくださいます。これは、使徒パウロが知っていた、テモテが教会内外の脅威に直面するという、大きな闘いの一つです。それがこの手紙のこの部分に関するもので、使徒パウロは聖霊によって、神の御力のゆえに恐れを正面から扱った聖句を語ります。そして、その恐れが何であろうと、この箇所はその恐れをあるべき場所に置くため使うことができます。そこで主のお許しをいただいて、まず、知らない人のために歴史的背景を説明し、使徒パウロがこの最も勇気づけられる手紙を書くことになったときの状況を、私たち皆への覚え書きとします。それから、使徒パウロがテモテに語っていたことの文脈を保ちながら、これらの節を解説していきます。そしてその後、私たち誰もが何らかの形で持ち、あるいは直面することになる恐れのさまざまな側面を取り上げます。教会よ、聞いてください。恐れは現実的な問題です。そうなんです。そして、この闘いは、神の御言葉という武器で戦わねばなりません。それでは、この手紙の歴史的背景について説明しましょう。すると、私たちの思いをこの場所に置くことができます。この時点で、使徒パウロはローマの牢獄にいたことが分かっているからです。そして、彼の投獄は、ローマの権力によって行われ、彼がローマ人に訴えられたという意味です。これはユダヤ人が思いついたことではありません。ここまで大丈夫ですか？ そして使徒パウロはローマ市民でした。おお、なんということ。彼らは、自分たちが自由に使える法律のあらゆる面を利用するための手段を惜しみません。事実、彼の罪状のひとつは、西暦 64 年ローマの大部分を焼いた大火の責任者であると、多くは提言します。歴史家によれば、この事件はクリスチャン達に責任があり、使徒パウロはその指導者だったと。いずれにせよ、パウロは獄中にいます。そして、その状況ゆえに、彼は自分が処刑されることを知っています。パウロはそれが分かっています。では、このことを考えてみましょう。彼はローマの牢獄で、基本的に自分を殺す命令を待っています。それなのに、彼は恐れのかげからも見せない。その代わりに、聖霊の力によって、パウロは若い愛弟子テモテを恐れずに励ました。皆さん、これを考えてみてください。これが分かりますか？ これだけでも黙想する価値があります。教会の皆さんに言います。私たちは毎日、この点に達しなければなりません。聞いてます？ 聞いている様に思えませんよ。言っておきます。私たちは毎日、この点を目指す必要がある。私たちはすでに命を失いました。生きておられる方のゆえに。そして、死に直面したとき、私たちは恐れず、自己に死んでキリストのために生きることを他の人々に勧めることができます。私たちは皆、そこに到達することができます。そうすることで、私たちが支配するものへの恐れを取り除くことができます。それが事実です。テモテは、教会に関する様々な問題にぶつかっていましたが、この手紙を受け取ることとなります。使徒パウロが直面していた状況をテモテは完全に理解しながら。この手紙を受け取ったとき、彼がどれほど勇気づけられたか、私には想像できます。つまり、私たちがこの文章を読むとき、約 2000 年後の私たちの霊がどれほど高められるか考えてほしいのです。私たちはそんな状況にいないのに。そして、この手紙の冒頭近くにある、これから説明する 3 つの節は、テモテが主に献身的な奉仕を続けるための燃料となりました。私たちはそこにいますか？ 私たちがそうなるよう祈ります。では取り組みましょう。「第二テモテへの手紙 1 章 6 節」、御言葉を読みます。

## 一II テモテ 1 : 6 一

そういうわけで、私はあなたに思い起こしてほしいのです。私の接手によってあなたのうちに与えられた神の賜物を、再び燃え立たせてください。

ここで使徒パウロは、テモテがすでに持っていたこの信仰を再び呼び起こすようにと念を押しています。彼はそれを失っていませんでした。ただそれを再燃させ続けるだけ。パウロはこう語っています。「あなたが経

験していること、これから経験するであろうことは、非常に困難なことで、実際にそうであっても、そのような困難や先行き不安の恐れによって、

神があなたに与えた賜物が消えてしまわないようにしなさい。」

そしてこの奮起の呼びかけは、テモテに対する積極的な呼びかけでした。言い換えれば、テモテはこの奮起のプロセスに関わり続けなければならなかった。なぜか？ 使徒パウロは間もなくこの世を去るから。そして、神が彼に与えたこの賜物は十分でした。彼は神からの新たな賜物を必要としていない。必要ありません。留意ください。この奮起というのは、自分をやたら鼓舞するようなものではなかった。こんな風な、「俺はテモテだぜ、ベイビー！よう！」— (笑) — そういうことではありませんでした。私たちは時に、そういうことに気をつけないといけませんよね。私たちは自分の力とパワーで、自分自身を奮い立たせようとする。いやいや、そういうことではありません。違います。それは、彼の内にある神の賜物についてで、神が取り去ることのない賜物です。聖書は、神の賜物と召しは、取り消すことができないと教えています。神はそれらを撤回されません。また、神の御思いは変更されません。問題は、私たちが撤回すること。主の賜物に、私たちの心が変わると、私たちはしばしばそれを使い続けられないことにする。そして多くの場合、それは恐れの子です。そして使徒パウロのこの呼びかけは、ある意味、その恐れを先取りしたものでした。テモテの頭に恐怖が迫ってくるのも無理はありません。繰り返しますが、教会は外部からの想像を絶する迫害に直面していただけてだけでなく、内部からのさまざまな問題を抱えていました。当時の牧師になることは、今のアメリカの牧師とはまったく違います。全く違います。そして、彼はこう考えたはず。「ねえ、僕の師匠がローマで投獄、死に直面している。多分僕もそうなる。」でしょ？「だから、今のうちに（頭が出てるうち、先手必勝）辞めた方がいいかもしれないな。まだ頭があるうちにね。」— (爆) — 言ってみただけ。まあ、私ならゾッとしますよ。私は本音を言っています。なぜなら、彼が扱っていたのは現実のいのちなのだから。これが私たちが話していること。だからテモテは決断しなければならない。もちろん、使徒パウロもそれを知っていました。そしてこれが、この節でテモテに「按手」と述べて、彼の言葉を個人的にした理由のひとつです。それがどれだけ個人的なことかわかりますか？ そして、これは私たちにとって理解する非常に重要な点です私たちの多くは、按手のようなことを些細なことだと考えているからです。しかし、本来それではいけません。非常に深刻に受け止めるべきで、こんにちでさえも。特に、使徒パウロが語っていたような意味では。たとえ神がテモテに伝道する賜物、宣教する賜物、聖書を扱う賜物を与えたとしても、その召しが神の人によって確信をされることは、過分な祝福だったからです。ただの神の人ではありません。違います。彼に与えられた力を霊的に伝えることのできる神の人です。これは実際にあることです。言い換えれば、バトンを渡すようなもので、おお、でも教師から霊的恩恵を受けているのです。これは言わば、託された生徒に与えられるものです。そしてそれはまた、同じ責任と同じ挑戦の多くが伴います。生徒（弟子）が教師（師）より良い扱いを受けることは期待できません。以前にも聞いたことがありますね？ このことを理解しなければならなかった。誰もがこの召しを受けることに二の足を踏んだでしょう。特にあの時代なら。これは最も危険な召しでした。今でもそうです。主の御名においてされるなら。神が意図されたとおりに神の御言葉を説くことは、おとぎ話ではありません。華やかさはありません。おお、彼らはそういう風にします。でも、彼らは神が意図されたとおりに神の御言葉を説いていません。彼らはそれで遊んでいます。そして、神は彼らに対処されるでしょう。しかし、神のご指示通りに神の御言葉を宣べ伝えているなら、想像もできないような苦しみや杯を味わうことになります。トラブルは四方八方にあって、恐れを抱く瞬間が、人生の道しるべとなるでしょう。誰がこの仕事を望むというのか？ しかし、この按手によって、召しが確認されただけでなく、召された者に力が与えられたのです。このことは「申命記 34 章 9 節」に記されています。神の御言葉は仰られます。

#### 一申命記 34 : 9一

ヌンの子ヨシュアは知恵の霊に満たされていた。モーセがかつて彼の上にその手を置いたからである。イスラエルの子らは彼に聞き従い、主がモーセに命じられたとおりに行った。

これが分かりますか？ これが、いかに按手が真剣に受け止められるべきかで、特に、リーダーシップと神の御言葉の教えに関連します。繰り返しますが、快適さとは全く無縁だから、これがどんなものかは彼らにもわかってはいたはず。これは血と汗と涙の結晶で、数々の挑戦、そして数々の恐れ。そして使徒パウロは、テモテが、このすべてそしてそれ以上のものに直面する事を知っていました。ですから、この按手に関



する個人的な適応は、テモテに、この召しがどのようなものかを思い出させただけではなく、テモテに必要な確信も与えました。それは、神が始められた御業を成就させるために、テモテが正に必要とするものを、すでにお与えになられたこと。前へ進み、恐れぬ。考えてみてください。それは使徒パウロから来たものでなければならなかった。なぜなら、使徒パウロはすでにそこに行きつき、それを行つたからで、そして今、主の御名によって力強くそのレースを終えようとしていた。なので、ある意味、テモテはこんな風で、「そう！パウロが接手してくれたんだ。その通りだ！！」すると、彼はこうあるのがふさわしいかもしれません。「家族のみんな、神は僕を召してくださったよ。」自分自身に語りながら、叱咤激励がちゃんと届く。そうすれば、彼が経験しただろうことに基づき、前方に迫っていた恐れも、別の視点から見えたことでしょう。そして私たちは、自分の人生や他人の人生に迫り来るこれらの恐れに取り組むとき、自分自身を両方の立場に置くことで、これを個々に当てはめることができます。私たち全員が最初にすべきひとつは、それを先取りすることです。皆さん、ついてきていますか？ 私は極端な準備主義者たちの話をしているのではありません。聞いてますか？ いや、とある準備主義者になるのではなく、あるいは、起こりうるすべてのこと、すべての結果を予測しようとするのではなく、気が狂いそうになって、不安と妄想に駆られるのではありません。私が話しているのは、そういうことではありません！ 私たちが話しているのは、進路を外さずやって来ることが知られた、あるいは、明らかな嵐についてです。あなたはこれを通過するのです。私たち大丈夫ですか？ これが起こります。そして、そのような時こそ、私たちは主や賢明な助言を求めることによって、それらに備えるべきなのです。は、主の御言葉と、主が私たちの人生に連れてきてくださる人々に導かれ、私たちがどこへ向かうべきかを見極める必要があります。そして、すでに経験したことのある者にとって、これらの人生に迫り来る恐れを抱いている兄弟姉妹を助けることが私たちの責務で、迫り来る恐れが麻痺させる現実になる前に、先手を打つのです。また、現実から目を背けないでください。（直訳：砂の中に頭を突っ込まないでください。）背けてもどうにもなりません。私たちは、聖霊の力によって、どうやってすべてを乗り越えることができたか、どのように主が私たちが最後まで耐え忍ぶことを可能にしてくださったかを彼らに示し、伝える必要があります。その終わりが何であっても、それが特定の試練の終わりでも、使徒パウロの様に、私たちのレースの終わりでも、主は道を開いてくださいます。私たちはただ、敬虔な模範に耳を傾け、主に完全に信頼し、その道を歩むだけです。スイッチを切ろうとすることもできますよ。風にあおられ戻るだけです。「箴言 12 章 25 節」に、記されています。神の御言葉を読みます。

## 一箴言 12 : 25

**心の不安は人を落ち込ませ、親切なことばは人を喜ばせる。**

神の御言葉だと分かりますか？ 神の御言葉は、そのような良い言葉に満ちています。神の民として、迫り来る恐れに直面している人々に伝えられるように、私たちが良い言葉と良い行いで満たされることを祈ります。本文の 7 節の御言葉に入ります。御言葉を読みます。

## 一II テモテ 1 : 7

**神は私たちに、臆病の霊ではなく、力と愛と慎みの霊を与えてくださいました。**

さて、このとてもよく知られた聖句は、私たちをととても感謝させてくれます。そうなるべきです。私たちにはそれが、この真理が、神の御言葉の中にあるのですから。使徒パウロがテモテに、神が彼の内に置かれたものについて、語った直後に、彼は聖霊によって、テモテに彼の中に置かれていないものを知らせています。それが分かりますか？ 神は賜物をお与えになりましたが、神は私たちに恐れや恐怖の霊は与えておられない。まるでパウロはテモテに、「神があなたの人生に与えられた召しで、恐れや恐怖の霊は神からではない、敵からである。」と語っている様です。で、だからといって、突然の恐れや恐怖の時期、あるいは恐怖の期間がないわけではありません。しかし、神の御言葉を伝える者として持つてはならないのは、恐れや恐怖の霊です。だからテモテは、思い起こしたのです。私たちの内におられる聖霊の御業に信頼するならば、聖霊が私たち一人ひとりに与えてくださるものを。それが分かりますか？ あまりにも多いのは、一度救われたら、まるで自分は何もすることがないかのように、聖霊がすべてをしてくださると思ってしまうこと。とんでもない曲解です。私たちは、主と共に分かち合うことによって、それが起こるようにならなければなりません。主の力の御業、主の愛の御業、そして主の健全な、あるいは躰けられた思い（思考）の御業。疑いなくテモテは、この言葉の適応を理解したはずで、聖霊の力と言え、この力は、超自然的な形で現れる、現実を支配す

る影響力と考えるべきです。いくつかの（わかりやすい）英語で説明します。私たちの内におられる聖霊は、現実のように見えるものの背後にある現実を示してください。皆さん聞いておられますか？ 主の力、真理の力によって、私たちはこの嘘と欺瞞に満ちた恐ろしい世を歩むことができる。つまり、テモテの前途がどうであれ、結果はすでに決まっていたのです。あなたが知る時、望んだり、考えたりする様なことではなく、最終的な結果を確実に知っていれば、今現在にパワーを与えてくれる。この神の人は、大胆な性格と大胆な信仰を持っていたに違いありません。その理由は、、聞いてください。遂行することは不可能だからです。聞いてます？ キーワード：遂行 真の生ける神に召された者が、臆病な性格で遂行することは、分かりますか？ 繰り返しますが、恐れを感じる瞬間は常にありますが、あなたが目にすることがないのは、本当にそのような奉仕のために召された人たちのこの（臆する）行動の霊です。ギデオンは恐れていました。しかし、神は、彼に力を与えられました。ヨナは恐れていました。しかし、神は、彼を力づけられました。ダビデは何度も恐れしました。しかし、神は、彼を力づけられました。数え上げればきりがありません。誰一人、免除されなかったからです。しかし、神は、彼ら全員を力づけられました。そして、私たちにも同じ様になさいます。これが、私たちが聖霊の力の中で歩まねばならない方法です。神が私たちをどこに置かれようと、それは私たち一人ひとりによって違うでしょうが、これが私たちが歩むべき方法です。私たちが奉仕するとき、聞いてください。私たちが奉仕するとき、神の御言葉が基準を定めています。私たちは恐れではなく、力を持って奉仕せねばなりません。また、使徒パウロがどのような特性を付け加えているのかにも注目すべきです。愛と健全なマインドを持つこと。では、使徒パウロが明かにしたわずかな情報と、私たちがテモテについて話しあったことに基づき、テモテは、愛と健全なマインドという重要な特性を持っていたと言えます。ですから、テモテが主に仕えていく上で必要なことは、この2つの最も重要な特性をあらゆる面で十分に発揮し続けることです。これは、私たちの歩みの間中、ずっと続けなくてはならないことです。それが分かりますか？ 絶え間なく。聖霊の力によって私たちが歩めるように、常に、聖霊が顕れるようにするためです。どうか聞いてください。これを見逃さないでください。なぜなら、その影響は甚大だからです。特に、あらゆる種類の恐れに向き合うにあたって。そして、私はこれをこう言うために、これをそう言います。もし私たちに愛が欠けているなら、もし私たちの愛が自己のためだけなら、もし私たちの愛が条件付きなら、もし私たちの愛が部分的なら、もし私たちの愛がキリストの愛でないなら、そうなら、聖霊の力を抑制し、恐れに心を許すことになります。教会よ、私の話を聞いていますか？ これは使徒パウロが語っていた文脈で、愛が与える表現で、神を使つたあなたの愛ではありません。そこでつまづいてしまうのです。主を愛しているけれど、あなたは他のみんなを憎んでいる。それは神の愛ではありません。御霊の力によって歩んでいるとでも思っているのですか？ あなたは愚かな歩みをしています。さあ、いきます。「第一コリント人への手紙 13 章」4 節から 6 節に収められているこの集約されたリストを読んでみましょう。私たちはそれをよく読みます。御言葉を読みます。

#### —1 コリント 13：4—

愛は寛容であり、愛は親切です。・・・

ここで立ち止まらねばなりません。半分の人たちは立ち上がって家に帰る。でしょ？ 私はそのすぐ後ろにいます。

・・・また人をねたみません。愛は自慢せず、高慢になりません。

#### —1 コリント 13：5—

礼儀に反することをせず、自分の利益を求めず、苛立たず、人がした悪を心に留めず、

#### —1 コリント 13：6—

不正を喜ばずに、真理を喜びます。

#### —1 コリント 13：7—

すべてを耐え、すべてを信じ、すべてを望み、すべてを忍びます。

そして、それらはすべて神と結びついています。私たちはこの箇所を何度読んで、また読んでもらったでし

ようか。毎日読んでいる人もいます。しかし、適切に実践しなければ、ほとんど意味がありません。だから私たちは、これが私たちの愛なのか自問する必要があります。それは私たち一人ひとりへの質問です。それらが多いほど、そしてまた、自分がある分野で助けを必要としていることを神に対して謙虚な心で認めるなら、そうすればするほど、恐れが入り込む隙間や余地を残す可能性は低くなります。なぜなら、自分を愛しているなら、誰かに自分を捧げることを恐れるからです。そのリストに目を通せばいいです。ですから、私が恐れの時期中にいるとき、最初にチェックするのは愛のメーターです。自分の愛メーターを見てみる必要があります。それで、祈りに行き、「主よ、私の愛は見当違いですか？」そうなら、私は知っているから。どこかに恐れのためのスペースを作っていることを。だから、私の心をさらけ出し、それを調べ、「それが何なのか見せてください。なぜ私は見逃しているのか？」一瞬や数秒の恐れから解放されたいわけではありません。いいえ、違います。根本的な原因を突き止めれば、神の御言葉を実行することによって、その恐れを根絶することができるからです。でも、まずその地点に行かねばなりません。中には、自分があまりにも良い人間だと思う人たちがいます。私って良いんだぞ〜。そして、彼らはあらゆることに死ぬほど怯えている。これは、私たち全員にとって大いに痛感すべきことです。愛が欠けているから、これほど恐れと闘うことになるのです。私たち全員にとって、自分自身を吟味することが良いです。そうすべきです。そして、この真理を知り、「第一ヨハネの手紙 4 章 18 節」に書かれている事を完全に受け入れることが、唯一の方法です。御言葉を読みます。

#### —Iヨハネ 4：18—

**愛には恐れがありません。全き愛は恐れを締め出します。恐れには罰が伴い、恐れる者は、愛において全きものとなっていないのです。**

点と点が繋がりますか？ これが神の御言葉です。私たちは、キリストがその完全な愛であることを知っています。私たちはイエスの完全な愛を持っています。私たちにはそれがありません。しかし、私たちはその愛の中で、完全なものとされることを自分自身に許していますか？その違いが分かりますか？ 私たちは皆、やるべきことがあります。そしてまた、これが恐れと闘う理由かもしれません。私たちの心が日常的に対処されたなら、私たちはまだ自分の思い（マインド）を吟味し、対処する必要があります。私たちは以前、思いと心がいかに密接に関係しているかについて話しました。しかし、使徒パウロはここで鮮やかに区別しています。というのも、彼が語っているのは、自分を律するという、失われがちな芸術だから。それを測る方法のひとつが、恐れ瞬間が訪れた時にどう対応するかです。そうすることで、自分たちがどこにいるのかを測ることができます。他にもありますが、これがその一つです。非常に物語っています。それでは考えてみましょう。使徒パウロはここで、テモテに宛てた 2 通目の手紙で、テモテを励ましています。繰り返しますが、テモテはその励ましの手紙を受けて、その後、差し出された知恵を生かしたと言えます。ですから、恐れ瞬間が訪れたとき、彼は鍛錬された思考で対応した。ここまで皆さん大丈夫ですか？ それこそ、私たちがせねばならないことだから。では、私たちは知識に基づいて、慎重で賢明な思考を維持できるのか？私たちが神の御言葉や他の主にある人々から学んだことへの理解は、顕れた聖霊の応えを私達が果たせるようにし、神の知恵が恐れに打ち勝つ力を証明するのか？ その全てが分かりましたか？ テープを巻き戻します。この地上には、聖典に書かれていないような恐るべき状況はありません。あらゆる恐れ背景が神の御言葉にあるだけでなく、現実的で賢明な決断を下すための様々な解決策もそこにあります。だから、神の御言葉を知り、理解することが重要なのです。ニュース速報：私たちの人生における最善の解決策で、神の御言葉を超越るものはありません。皆さん聞いてますか？ そして、このような恐れに対処する際に多くの場合で見られる、唯一私たちにできることは、祈りの中で主に委ねることです。すべての手立てを使い果たした 15 日後に、祈りの中で主に委ねるという意味ではありません。また、小さな、実行可能な項目がある場合もあって、それを意識する必要があります。神が私たちに経験させられる全キャンペーンが行われる可能性だってあります。しかし、主の御言葉が、それが直接であれ、複数の助言者によるものであれ、私たちに導いてくださいます。健全な思いを持ち、すべてを主に委ねることが必要です。もし私たちが最初にすることが誰かに電話することなら、私たちの思いは健全ではありません。もし私たちが最初にすることがインターネットで答えを探すことなら、私たちの思いは健全ではありません。もし私たちが最初にすることが、"もしも"のシナリオを描き続ける状態なら、私たちの思いは健全ではありません。私たちは 1 番に主を求めなければなりません。すると主は、しばしば恐れに伴うあらゆる混沌の中で、私たちの歩みを明確に秩序正しくなされます。では、これも考えてみてください。使徒パウロが言及していることすべてに関して、彼はこの宣教



の最後の手紙の中で、他の奇跡的な賜物については一切触れていません。聞いてます？ それは何を物語っているのか？ この時点で重要視されているのは、愛と健全な思いによる聖霊への信頼です。これらは恐れとの闘いにおいての鍵です。そのすべてを通して神を求めることが必要なのです。「詩篇 34 篇」、4 節 5 節に収められています。神の御言葉は仰られます。

#### 一詩篇 34 : 4一

私が主を求めると 主は答えすべての恐怖から 私を救い出してくださいました。

#### 一詩篇 34 : 5一

主を仰ぎ見ると 彼らは輝いた。彼らの顔は辱められることがない。彼ら全員が主を仰ぎ見る。

そして主を求めるとき、私たちは心の姿勢を正して行う必要があります。これは足止めです。私たちは、こんな問題を抱えていることを知っていながら、それを告白することさえしない。そして主はこうです。「あなたはまだ自分の限界に達していない。」それで、あなたは御座にやってきて、あなたは愛に問題を抱えている。自分がしていることを分かっている。何が何だか分からないほど、あなたは自分勝手。そして、あなたは主の前に歩み寄って、「主よ、私はこれもあれも、何もかもがいい感じです。私のために、これをちょっとだけ考えてほしいのです。どうぞよろしく。」でも、あなたは自分の終わりに達していない。私たちが行くべきなのは、「主よ、私はもうボロボロです。私は愛の問題を抱えています。そして、それが私の人生に多くの恐れを引き起こしていると本当に思います。助けてくださいませんか？」おお、なんということ。その違いは即座です。あなたはそれを口にも出せない。神は心をご存知だから。本文の最後の節に入る前に、この「恐れ」について触れておきたいと思います。なぜなら、たとえ善意であっても、私たちはしばしばこの言葉を文脈から外して使ってしまうからです。繰り返しますが、使徒パウロがテモテに力説した文脈は、神の御言葉を伝える者として、臆病者である態度は取るべきでないということでした。皆さん聞いてますか？ 神に召されたのなら、臆病な態度をとることはできません。それは神があなたに与えておられないから。それは、誰かが召されていないことを示す最初のしるしです。神の御言葉を避け、震え、動揺し、隠れる時。でしょ？ だから私たちは.....ああ、あなたは神に召されていない。あなたが自分で選んだだけ。言い換えれば神の御言葉は弱々しく示してはなりません。神の御言葉は力強いもので、それが書かれたのと同じ力、すなわち聖霊の力で示されなければなりません。ですから私たちは、恐れに関連して命がけで戦っている人たちを慰めようとするときに、意図されたメッセージを失ってはなりません。繰り返しますが、恐れは現実です。そして私たちは皆、イエスがその答えであることを知っています。最悪の敵に望まないような形で闘っている人々に対して、私たちは非常に敏感でなければなりません。そして、私たちはできる限り彼らをサポートする必要があります。恐れや不安の壊滅的な猛攻撃と闘っている方は、どうか希望を失わないでください。何があっても御言葉と祈りの中にとどまり、自分の価値を低く見てはなりません。あなたの価値は低くない。実際、人々があなたの置かれている状態を認識するにつれて、あなたがもたらすものの価値が高くなるとも言えます。ですから、元気を出してください。では、また、恐れを持つことの背後に、ある種の適合する要素もあります。そしてそれは、悪魔を楽しませることによって自ら招いたものです。聞いてます？ 悪魔はクリスチャンに憑依できませんが、特に恐れを利用することで、あなたを追い詰めます。あなたが彼らを弄ぼうと思えば、彼らは弄り返す。あなたの友達になりたがっている悪魔はたくさんいます。どうです？ 悪魔は眠りません。そして、彼らと一緒に遊べば、あなたも眠れなくなる。いたずらなことを耳元でささやきながら、あなたを一晩中眠らせない。私たちは神の御霊の中で、歩む必要があります。すると、恐れにチャンスはありません。では、本文の最後の 8 節、御言葉を読みます。

#### 一II テモテ 1 : 8一

ですからあなたは、私たちの主を証しすることや、私が主の囚人であることを恥じてはいけません。むしろ、神の力によって、福音のために私と苦しみをともにしてください。

使徒パウロは続けます。来るであろう恐れを先読みしていた様に、来るであろう恥を先読みしています。恥が恐れを引き起こすと思いませんか？ エデンの園を思い返してください。アダムが罪を犯した後、おお、彼は隠れました。自分が裸であることを恐れて。(創世記 3 : 10)

これこそ、恥が私たち全員にもたらす可能性です。アダムの恥は自分で招いたものですが、それでも恥です。テモテの時代、嘲笑する者たちの多くは、イエスを死んだユダヤ人としか見ていませんでした。それだけです。だから彼らにとって、テモテは気違いです。旧約聖書と照らし合わせて聖句を証明する新約聖書はまだまとめられていません。そして、神の御言葉を証明するためにあった奇跡の多くは、すでにその目的を終えていました。使徒パウロがローマに監禁されていることも忘れないようにしましょう。そのため、使徒パウロがテモテにいかに関心をもちたか、また自分の置かれた状況を恥じて欲しくなかったかがわかります。近親者が投獄されている者にとって、これに共感できます。連帯責任で有罪なのだから。それが私たちの見方です。そして、その見方が許されると、恥は心に深く沁みしていきます。だから、想像できる通り、テモテにとってこのすべては並大抵のことではなかった。でも尚、彼は恥じるなど言われませんでした。なぜか？ 真の生ける神に仕えることは恥ではないから。世はイエスを憎んでいます。では、私たちは何を期待するのか？ 私たちは常に標的にされます。私たちは常に嘲笑されます。私たちは常に、恥ずべき過去の行いを見せ付けられます。私は自分の動画が出てくるのを待っています。ー（笑）ー

うわ〜って感じです。まあ、どこかにありますって。しかし、福音は不快です。世は私たちを黙らせようとしています。静かにしろ！ そして恥を恐れずの戦術として使おうとする。しかし、神は。権力と権威を無力化し、彼らを公然の恥辱に陥れられました。だから恐れる必要はありません。また、使徒パウロは、ローマ人たちや他の人たちにそう見えませんが、自分自身をイエスの囚人と呼んでいることに注目ください。何がすごいと言うと、彼は、こんな滑らかな言葉を口にしません。私のところに来て、こうしてくれとか、主に仕える何らかの大きな報酬を分かち合うことになるのかと言いません。彼は苦しみを分かち合おうと申し出ただけ。そのリストから私を外してくれる？ ー（笑）ー 誰が苦しみたいですか？ しかし、ここにその美点があります。福音に込められた神の力は、あらゆる苦しみに打ち勝ち、そしてそれは、かつて人間の共通した恐れであった「死」を克服する力があります。テモテは、このことを知っていたと言えます。だから彼は、死にもかかわらず、自分のレースを続け、キリストのために生きる。そして、私たちも同じことをすべきです。でもこんにちの人は、死なんてたいしたことじゃないとばかりに遊んでいます。イエスなしに、死を恐れないと主張する人々は、死が何であるかを分かっていません。残念なことです。イエスなしに、死ねば、死者の住処、黄泉にいき、そして裁きを待ち、地獄に落とされる。それがこの事実です。あなたに言うておきます。地獄に良い区画はありません。あなたはここに座ってゲームをしていて、イエスについて聞いて、あなたの生涯のすべてがかかっています。それがゲームだと？ ただ愚かなだけです。祈りつつ、神の憐れみによって、神が真夜中に今までに感じたことのない恐怖であなたを目覚めさせるまで、真の生ける神が誰であるかを悟るまで、それが消えることがないように祈ります。あなたは魂の救いのためにイエスが必要だからです。恐れを永久に遠ざけることができるのはイエスだけです。あなたがイエスを知らないなら、今日、イエスを選び、イエス・キリストの福音によって、救われることをお勧めします。イエス・キリストの福音とは、聖書に書いてある通り、キリストが私たちの罪のために死んでくださったこと、イエスは葬られ、3日目によみがえられたこと。(1コリント 15:1-4 参照) 救われるのは、ABCくらいシンプルです。

A：まず、自分が神に背いた罪びとだと Acknowledge/認識する。唯一の救い主イエス・キリストが必要だと、Acknowledge/認識する。

### ーローマ人への手紙 3章 10節ー

義人(正しい者)はいない。一人もいない。

### ーローマ人への手紙 3章 23節ー

すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができず、誰ひとりとして、自分の功績では、神の国に受け入れられることはありません。

### ーローマ人への手紙 6章 23節ー

罪の報酬は死です。しかし神の賜物(贈り物)は私たちの主キリスト・イエスによる永遠のいのちです。

それがAです。Bは、B：Believe/信じる。Cは、C：Confess/(口で)告白する。両方、「ローマ人への手



紙」10章9節と10節、神の御言葉が語ります。

#### ーローマ人への手紙10章9節ー

「あなたの口でイエスは主と告白しあなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせたと信じるなら、あなたは救われるからです。」

#### ーローマ人への手紙10章10節ー

人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。これは救われるための最もシンプルな方法です。

そして、あなたは恐れることなく、神の御言葉の真理に安住することができます。神は私たちを愛しておられるので、私たちが和解することを望んでおられます。神の御言葉はこう語ります。「第二ペテロの手紙3章9節」です。

#### ーIIペテロ3:9ー

主は、ある人たちが遅れていると思っているように、約束したことを遅らせているのではなく、あなたに対して忍耐しておられるのです。だれも滅びることがなく、すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるのです。

主において、恐れはありません。そして、最終的に主に服従するとき、私たちの恐れ最大の戦いは終わります。ご起立ください。カポノ、上がってきてください。一緒に祈りましょう。愛する天のお父様、真理の御言葉を本当にありがとうございます。私たちが、十分備えられるよう、昼も夜もそれを黙想し、それに従って行動し、この暗く倒錯した世の中で迷っている人々に、あなたの御言葉を伝えることができますように。私たちはあなたの恵みと憐れみに基づいて生まれたのです。ですからあなたが他の人々に恵みと憐れみを与えてくださるようお願いいたします。私たちが恐れを抱くことなく、信仰において十分に大胆になり、あなたの御言葉を語り他の人たちも救われますように。私たちはあなたを愛し、感謝し、賛美します。救世主イエス・キリストの力強い御名において祈ります。アーメン。

---

メッセージ by JD Farag 牧師 カルバリー・カネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii 筆記 hukuinn7